

ヨハネによる福音 書

と

King's College グローバル

Who:ヨハネ

- 内的証拠：二日を記録した弟子（21:24）。イエスの愛する弟子（21:7）。弟子の中で彼の愛する者（13:23-24）。12弟子の一人として最後の晩餐に参加する（マルコ14:17;ルカ22:14）。ペテロとおなじみの関係、特に3人のコアサークルに属する（20:2-12;5:37-38;9:2-3;14:33）。ヤコブの殉教の時期がAD 44年頃であることを考慮すると、ヨハネの可能性が最も高く、彼はイエスの十字架の隣にあり（19:26）目で目撃した証人です（1:14;1:1-4）

ㄥ

Who:ヨハネ

- 外的証拠：イレニウスが伝えたポリキップの証言によると、「主の使徒であり、彼の懐に期待されたヨハネは、アジアのエベスの彼の居場所で福音書を施しました」。（異端を反論する）

ㄥ

Whom

- Whom : 一次的には、ギリシャ的環境のすべてのクリスチャン(ユダヤの季節を説明)、しかし宇宙的对象を目指しています。

ㄱ

When:

- AD 85- 95年の考古学的証拠（ 4:11; 5:2-3 ）、教会の伝承は「4番目の福音」です。呼ばれ、ヨハネの老年期に執筆

Where

- **Where:**ヨハネのミニストリーであるエフェソス（ユセビウス、教会）ヨハネの黙示録の小アジア7教会への手紙1番目がエフェソスに送った手紙。

Why

- Why：福音の目的：すべてがイエスを信じることができるように（20:31）。信仰を動詞的に（ピストゥーオ98）、奇跡はイエスの息子の心を表すObject Lesson（14：8）
- 弁証的目的：公会ユダヤ主義、領地主義からキリスト教の信仰を守る
- 他の福音書を補完してケリグマを形成する（初代教会の柱のようなヨハネの証言と神学）

What

- **What**：キリスト論の聖霊神と十字架を通して神の愛を明らかにすることによって栄光を得ました。イエスが神様の子メシヤの心を証する宣言でいっぱいになっています。したがって、啓示の本、栄光の本とも見られる。

と 発見されたアイデンティティ

- ことば (1 : 1、14)。神の独身者 (1:18)。一人の子 (3 : 16、18)、神の息子 (1 : 34、1 : 49、11 : 11、20、31)、その息子 (3 : 17、36; 5 : 19-27)、神から来た先生 (3 : 2)、その預言者 (4 : 19、9 : 1) 神の子羊 (1 : 29、36)、そのオシル (12 : 13)、その人 (19 : 5)、神に送られた者 (16-17、34; 5:30; 7:16-18; 10:36)、報恵師 (14:16) 2 21:7; 6:68)、私の主、私の神(20:28:1:1)

イエスの自己宣言

- 「私は...ある」形式を借りた連続自己宣言がある
- 「私は命の餅です」(6:35)
- 「私は世界の光です」(8:12)
- 「私は羊の門です」(10 : 7、9)
- 「わたしは復活であり、命である」(11:25)
- 「私は道であり、真実であり、命である」(14 : 6)
- 「私は真のつるです」(15 : 1、5)

7つの標的を行うことでロゴスな自分を証明

- ガーナのワインの奇跡(2:1-12//3:1-21) (quality)
- カペルナウムで王の神下の息子を苦しむ(4:46-54//4:1-42) (space)
- ・ベデスタ 釘で患者を癒す(5:1-18)//5:19-47) (time)
- ガリラヤのビーチで五千人を養う (6 : 1-15//6 : 22-65) : (quantity)
- ガリラヤの海の上を歩く (6:16-21//7:1-52) : (natural law)
- エルサレムで小径を癒す (9:1-41//8:12-59) : イエスは世界の光
- ベダニで死んだネジロを起こす (11 : 1-45// 10 : 1-42) : 死を治める権威 (死)

成長

- イエスの神性と韌性の両方が明らかにされています
- ヨハネによる福音書はイエスの神性（1:1; 10:30; 8:58; 14:9; 20:28）を強調した本として知られていますが、韌性（4:6、7; 6:26、67; 8:44; 18:23; 9:11）も強調しています。

5

ヨハネによる福音書の神学的テーマ

- 救い論：世の罪を負う（贖い：Substitute）神の子羊（1：29）、現在所有しているビデオ（1：12; 3：16、36; 5：24; 6：33、40、47）、聖霊の確信（16：8、4人、6）聞こえる (lifting up: 3:14, 8:28; 12:32, 34)

5

ヨハネによる福音書の神学的テーマ

- 終末論：現在の裁き（3:16、36; 5:14; 9:39; 12:31）、裁きを克服する（9:2：私たちの目に見えた者を治す）、現在の災害ではなく精神的な状態（闇を光より愛する：3：18、19）、注ぐ（ヨハネのペンテコステ20:22）

ヨハネによる福音書の神学的テーマ

- 教会論：神殿（2：18、19）羊飼いと羊（10章）ぶどうの木と枝（15章）、弟子たちのための祭司的な祈り（17章）、使徒的使命：「私の羊を養う」（21：15、16、17）、弟子地上の使命を受け継いで神の愛を明らかにする

5

ヨハネによる福音書の神学的テーマ

- 聖霊論：自分の働きが弟子たちによって持続するために、他の恵み、聖霊を与える

How

- 福音書はイエスを知らせることによって救いの道を伝道する目的で書かれました。
- 状況化された福音を伝える：ユダヤ的背景を持って発生した福音をギリシャ的観点から再解釈し、ギリシャ的思考構造を持つ知性人たちにキリストの福音を宣言する本です。

How

- ユダヤ的背景：ユダヤ教の季節、制度の習慣、神学的概念を背景としています。（旧約とユダヤ教思想と連携）
- 季節：3回の過越祭- 2:13, 23; 6:4; 12 : 1。祝日- 5 : 1。幕屋-7:2, 14, 37, 受電節-10:22

- ギリシャ的背景：プラトンの二元論：空間的二元論の言語「上」「下」（ニゴデモのメガネ）、上の世界（イデア、真理または本質の世界、借金の世界、魂の世界、永遠の世界、変化のない絵、現象）偽の世界、暗闇の世界、物質の世界、時間の世界、変化のある世界）

How

- それで、ヨハネの救い論は、「ヨハネはギリシャ的思考を持っている人たちに、イエス・キリストの出来事は「上」の霊と真理と永遠がこの「下」の物質と現象と時間の世界に浸透し、上記の真の知識と命をもたらした事件だと宣言する。このような命の可能性は、イエス・キリストを見て信じて神様を知ることによって現実化される。

How

- 、イエスは特徴的に各個人とのインタビュー形式（27 : The personal relation of Jesus to all man）を通して真実を教えてください。
- 旧約聖書で神の御名を暗示する「エゴ...エミ」（私は...である）方式による自己宣言、標的を行い、これを通じて霊的な実体を説明する方式は、ヨハネの独特の文学方式である。

構造

Ⅰ. はじめに

- 1) 書言(1:1-18)
- 2) 証言(1:19-51)

Ⅱ. 1巻: ターゲットの本(2:1-12:50)

- 1) 7つのターゲット
- 2) 構造: ターゲット+誤解+強論
- 3) 私は...だ (エゴ...エミ) 形式の言葉

Ⅲ. 2巻: 栄光の本(13:1-20:31)

- 1) 分離者
- 2) 祈り
- 3) イエスの栄光を受けて父に帰る

Ⅳ. 付録

アウトライン

- I. 1: 1-18書言
- II. 1:19-12:51 イエスの功績
- 1:19-51 イエスの証言
- 2:1-4:42 新時代をお知らせ*過越祭
- 1) カナホンインごちそう
- 2) 神殿の浄化
- 3) ユダヤ人の最高峰ニゴデモとの会話
- 4) サマリア女性との会話
- C.4:43-5:47 イエスは命と裁きの仲裁者です
- 1) 高官の息子を治す
- 2) 中風病者を治す：イエスの終末的な働き*祝日の安息日

と

アウトライン

- 6; 1-71 イエスは命の様式。出エジプト、過越祭の主人
- 1) 五千人を養う
- 2) 水の上を歩く
- 7:1-8:59 イエスはミネラルウォーターであり、生命の雨:*初幕節
- 9:1-10:42 イエスは人類の光であり、羊飼い:*水の節
- 小経の開案事件
- 良い羊飼いイエス
- 11:1-54 イエスは復活であり、命
- 11:55-12:50: イエスは王、死を通じた猛烈な勝利:
- 1) イエスに対する油そそがれ
- 2) エルサレム入城:「栄光」で表現されたイエスの苦難

アウトライン

5

- III。 13:1-20:3 イエスの受難と復活
- 13:1-17:26 屋根裏部屋の弟子たちに対するイエスの働き
- 13:1-30
- 13:31-14:31 イエスの去りと再び来る
- 15:1-17 イエスは真のつる
- 15:18-16:4 教会に対する世界の憎しみ
- 16:4b-33 喧嘩に勝つ喜び
- 17:1-26 大祭司の祈り

アウトライン

- 18:1-20:31 イエスの死と復活*過越祭
- 18 : 1-11 イエスが逮捕されました
- 18:12-27 大祭司の法廷
- 18:28-19:16a ヴィラドの法廷
- 19:16b-42 イエスの十字架と店
- 20:1-31 イエスの復活
- IV。 21 : 1-25 終わり : 教会の働きと教会の大使徒

ㄱ

西言（プロローグ）

ストーリーの進行をオリエンションします。「永遠の神のロゴが城 肉身で神様の啓示と救いを成し遂げた事件だと理解するのを助けるためだ」 -キム・セユン

初めにおられた言葉

- 創世記創造記事を並行（創1：1、ヨハ1：1、曜日）
- 先にある神の子(17:5)
- 旧約聖書の言う神
- 知恵の人格化の例（睡眠8章）イオンはヨハネの「みことば」に似ているようですが、以下の詩によって区別されます。

みことばが肉体になる

- キーワードの詩的な構造 (1:12-13)
- 1:1 みことば...みことば...神...みことば。神であるイエス
- 1:4-5 命...証人...光...光...証拠...光 彼の働き：啓示と拘束
- 1:6-8 証人...光...光...証拠...光。彼の証拠
- 1:11-12 彼の（所有者）...彼（所有者）...受付...受付:
- 信仰への招待がピークにこの部屋： 世界の3つの反応：
 - 無知（詩1：2-3）、不信（イザ53：1; 12:41; 16：8-11）、信仰（3：5-8; 6:67-69; 12:31-32; 17:6-19）

書言の構成

- みことばと神 (1-5)。みことばと人類 (16-18)
 - ヨハネの証言 (6-8)。ヨハネの証言(15)
 - 否定的な反応(9-11) 肯定的な反応(14)
 - 信仰の恩恵 (12-13)

ㄥ

最初のポイント (1 : 11-12)

自分の地に来て自分を明らかにする

- 1) ほとんど受け入れない
- 2) 受け入れる者は神様の子どもになる権威を受ける

信じる者の特権である神の子 (1:12-13) : 命は神からのもの
(3 : 3、生まれ変わり)

みことばが肉体になりました (ビル2 : 5-9; ヨハ1 : 1-3)

▪

第二のポイント (1:14)

- 神のロゴが肉体になる
 - A. バプテスマのヨハネより先になったイエス (ヨハネ1-15)
 - B. みことばが民に与えるヘテク
 - C. モーセとの比較：類似性と相違性 (超越性)
 - D. 生まれた神は初めの神であり、「父親の中におられた息子」は神と共におられる御言葉 (1:1-2) ですが、その息子は父の解釈

■

証言

- A. ヨハネの証言：世界の罪を犯して行く神の子羊（1:29）、終末論の全能の羊（The mighty Lamb）過越祭の子羊（19-34）
- B. アンドレの証言：メシア（41）：油そそがれた者
- C. ピリピの証言：モーセが律法に証しし、預言者が記録した彼（：46; 5:39-46; 24:27, 44。申18:18）
- D. ナダナエルの証言：神の子、イスラエルの王（1:49）//ナザレの問題（1:45、46; マタ2:23; 13:5）。幹事がない真のイスラエル

3番目のポイント

- 「天が開かれ、神の使者たちが人の上に上がり降りるのを見る」。
- ユダヤ神学の福音 ユダヤ神学の福音(創28:12;サム7:12-14;ナタンの信託- ダビデの種; 7章:その人の息子: 1神の息子, 2.終末の神の民,すなわち終末の神の真の民を創造成就するまさに「その人の息子」: ナダナエルのメシヤ待望を超越するイエスのメシヤ的働き

ㄱ

ガーナからガーナまで (ヨハネ2 : 4)

- ヨハネによる福音書第2章から第4章は統一性を持っています。

最初の奇跡：ガーナ 婚姻ごちそう（2：1-12）

- 婚姻ごちそうとワイン：ワインが落ちると数値がもたらされる。
- イエスの時：未来にある充実した自己啓示の時：

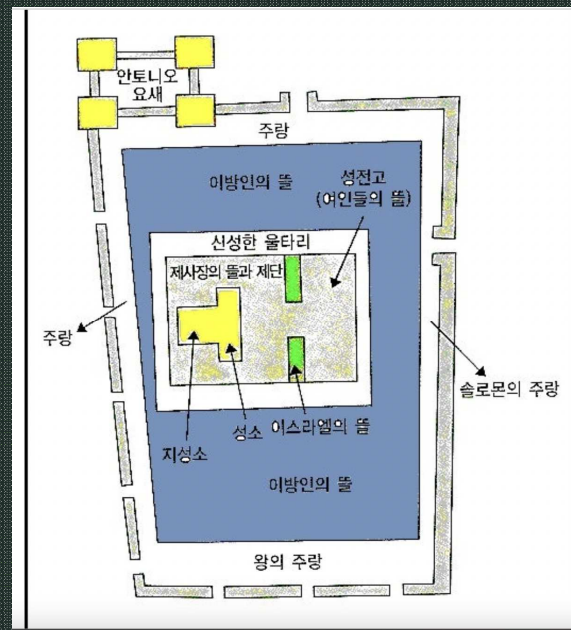
終末論的なシンボルとしての婚姻

- 欠乏、ニーズに対する解決策：瓶の中の水（神殿への入り口のための清潔な儀式のための水）は、最初にゲストを扱ったワインよりも良いワインを供給することができました：ユダヤ教の儀式では経験できない新しくて真の喜びを経験させました。
- 新しい（新しい）より良い（エクセレント）メシアの時代の宣言であり、新しい（真）喜びをもたらします。
- ガーナの奇跡は（2：1-11//4：46-54）イエスが約束されたイエスであることを示しましたが、まだ彼の時ではありません。奇跡だった

神殿浄化事件(2:13-25)

- 公館福音ではイエス様の受難記事の直前にこの事件が配置されているが ヨハネは前に設定することで、西言と共にこれから取り上げる主題を結び付けました。 合わせようとする。
- 46年間建てられたヘロデ神殿「ハムラ」政治的、商業的意図を可能にした妥協した不正な不適切な礼拝。スルフバベル神殿再建時の人々の考えと神の考えの対照（学2章）
- 三日目に立つ神殿であるイエスの復活した体：彼の体のある神の民のコミュニティを含む：詩編69：9引用、神の前をささげる情熱が彼を飲み込む：イエスの訴えの仕味を提供して十字架の兄弟をもたらず：真の礼拝をささげる殉教者の道
- 新時代の新しい礼拝（神霊と真に捧げる真の礼拝）の中心 イエス様
- 適用：私たちの礼拝を妨げるものは何ですか？

エルサレム神殿の略図



ニゴデモ：閉じ込められた福音書（3：1-

- ニゴデモのイエス様への抽象的な関心²¹と追い込み：奇跡的に施される空が送った先生として理解（2）：ユダヤ人の先生、ユダヤ民が指導者であるニゴデモは夜の人
- 自然人としての彼の知的限界：神の国に入るための生まれ変わりを肉体の仕事として、地の仕事として理解：ニゴデモは地の人
- 生まれ変わりの二重の意味：「アノテン」第二誕生と慰めからの誕生：生まれ変わり 天からの歴史だ：水と聖霊へ（4つの意見：洗礼と聖霊、洗礼 ヨハネの悔い改めの洗礼 以後、イエスの聖霊の洗礼、自然的出産と聖霊の歴史、水のような聖霊の歴史 など
- 空から降りてきた さて、空に上がった さて（ヤコブのはしご1:51）：
- モーセの真鍮 一緒に聞こえるべき要因（ヨハ21；ヨハネの「聞こえる」方法）
彼を信じる者に与えられる命（永遠の命）
- 福音の要約（3:16）と人間の2つの反応、2つの結果：肯定的な利点である
永遠の 否定的な結果である審判

5

バプテスマのヨハネの証(3:22-36)

- ヨハネの記事(3:22-36)がニゴデモとの対話でテーマをさらに強化する
- 新郎の友達として喜ぶ洗礼ヨハン
- 彼は興奮しなければならず、私は衰えなければならぬ理由
- 上から来るこの//土地で難易(ニゴデモの疑問)
- 永遠の命であるイエス

井戸街、サマリアの女性の救い(4:1-42)

- ニゴデモとの対照
- 性別、人種、宗教の違いを超える福音の啓示：
- ユダヤ人のサマリア人に対する偏見、女性に対する当時の過酷な偏見
- サマリアの女性はサマリア人の歴史性を代弁：BC 722年の北王国滅亡後、アッシリアによる混血政策でユダヤ人はサマリア人に対する敵対感（ネヘミヤ）を持った
- 礼拝場所：グリシム山（申12：5解釈）聖典（オギョンマン）
- ヤコブとイエスの比較（井戸水とミネラルウォーター、命の源であるイエス）
- 新時代の真の礼拝を紹介し、真の礼拝者を追求：神霊と真に捧げる礼拝
- サマリアの復活(4:39-42 //使徒8:5-8)
- 救いの情熱：私の様式は...意味を果たす,,,成し遂げる 仕事
- 救いの範囲と時：どこでも、誰にでも、いつも白くなって収穫するとき

ニゴデモとサマリア女性との比較（3-4章）

	ニゴデモ	サマリアの女性
場所	エルサレム	サマリア
時間	夜	午後6時 ごろ？
軟油	計画的な訪問	偶然
内容	神学	実用的
近づいた人	ニゴデモ	イエス様
人種	ユダヤ人	サマリア人(混血)
社会的地位	リーダー、先生	た者(道徳的欠陥)
城	男	女性
態度	丁寧	敵対的、以来の尊敬
形	会話から独白	会話で終わる
結果	表示されない	悔い改め、証拠、伝道

新しい時代のイエスの

ターゲット	新しい喜び	2:1-11	ガーナから水をワインへ(1)
	新しい神殿	2:12-25	寺院の浄化のでき事(2)
会話	新しい誕生	3:1-22	ニゴデモとの会話(1の答え)
		3:23-30	バプテスマのヨハネとイエス
会話	新しい普遍的な崇拜	4:1-4:42	サマリアの女性とイエス(2回答)
ターゲット	救援館	4:43-54	ガーナで高官の息子を癒す

5

6.王の神下の息子を苦しむ(4:43-54)

- 地位とお金で解決できなかった死の影である病気を治すことで永遠の命を与える主イシムを示す（標的と記事）
- 32-40キロが地理的に離れたところでイエスの言葉によって癒されが起こった、空間の限界を超越される神様

ㄥ イエスは命と裁きの仲裁者(4:43-5:47)

- 新時代の真のメシアイエス：ヨハネ5：10はユダヤ人の季節です。つながり、季節と制度を完成させたイエス様を明らかにしている。
- ヨハネによる福音書（4）4:43-5:47：癒しの奇跡を通してイエスの終末的な働き（安息日の主人）を明らかにする。高官の息子の癒しに続き、安息日にベデスダ釘家の病人を直した事件（1-9）はイエスが終わった完成の永遠の命をもたらし、それは安息日の真の意味（10-18）です。この治癒事件に続くイエスの強化（19-47）息子と裁き（19-29）イエスの証拠（30-47）で構成されています。

1. 38年 病人を癒す (5 : 1-9)

A. ベデスタ釘 家の病人 : 自力救済が不可能な人類の標本 : 死の権威の下に閉じ込められ、病気に苦しんで安息日にも安息がない 都合だ。天使が降りてきて、水が動く迷信に頼るが、そこには救いがない。 「福音とは、この人類にとって救い主です。来る だろう。」

B. 安息日の議論 (5:10-18)

1) ユダヤ人の視点: 安息日を守る方法を犯したのです (5:10-16)

2) イエス様の安息日に関する観点 : 「私の父はこれまで 働くと私も働く (5:17)

2. イエス様と安息日

A. 安息なしのタイプ

- 1) 人間の絶え間ない自力救いの動力、無限の欲が安息を奪われた感覚：工業化機械化：死の拡大
- 2) 恐怖を根底にする律法的な態度が安息を妨げる：ユダヤ人の誤解：安息を味わえず安息日を偶像時：清教徒、韓国初期キリスト教もユダヤ人のように安息日自体を偶像視する傾向があった。：目の前で三十八年上の病人が優れた驚異的な奇跡が起こったのに、輸送）もの」を施肥する。

B.安息日に含まれる真の意味

と

1)父が働くことのしるしである

旧約聖書：墮落 前：創造史役の完成を喜んで楽しむ が円形だった
(創世記)

墮落 後：墮落によるいくつかの欠乏性：死の症状：苦難、
病気、死 など人間の内在的欠乏性で人類は安息の喜びを失う 捨てた
(根が抜かれた木のように命の源を失ってしまった)。

そうして、それ以来安息日は人間の歴史の中で行われている神様の救いの働きを眺めるようにすることであった。安息日を守ることは、人類がエデンに神の国に復帰するという予言的な約束を示しています。新しい創造の歴史の終わりに、世界は神の安息に入り、その喜びのごちそうがあります。(ヒ4, 5)それが第4の戒めを与えた 理由だ。

B.安息日に含まれる真の意味

2)父に代わってイエスが働かれたのです。

- イエスの癒し 行為は終末に行われる神の救いの働きの完成とともに与えられる安息の影であった。
- は、人類に終末に味わう安息を与えます。彼らは私に来て、私はあなたを休ませます。私は心が穏やかで謙遜なので、私のヨークを握って私に学びなさい。だからすべてを失う捨てた バード人類は安息 主人であるイエスに行く する。

C.安息日とは

- 1) 私のさよならと命がひたすら神から来ると信仰告白をする日だ。
- 2)世の中を偶像視しないと誓う日だ
- 3)自分の力と資源を信賴せず、ただ神様に頼り、恵みだけに頼るという態度を持つのだ。
- 4) 命を確保しようとする人生のやり方を止めるという意味だ

3. 罪と病との関係

と

- 1) 因果関係がある。(14) : 一般に、人類の死と病気は最初の犯罪に起因する。この一般的な原則は個人に適用することができます。
- 2) 常に適用される一対一因果関係はありません。関係を判断するのは難しい。(ヨハネ9:3) : 罪を犯す(ハマルタノ)は現在の形です。具体的な行為ではなく、一般的な振る舞いを意味するために、イエスはここで一般的な原則を与えます 教訓したのだ。
- 3) もし因果関係があるかもしれないから思い出す罪は告白し、イエスの救いに基づいて大胆さで癒しを祈らなければならない。教会の癒し 祈りをするとき、罪を告白し、病気を祈るように言われます(約5:14-15)。

5

4. イエスを殺そうとした理由

1) 彼が安息日を犯すということである。 イエスは安息日の主であり、 安息を人間に与える 来ました。

2) 神様の父と同等に励みで神性冒瀆をしたということ。 :契約関係を意味する父-息子の範囲 超越するイエスの神様との一体意識に怒ったのです。

D.息子と裁き（ 5:19-29 ）

- 1)父が行なうそれを息子も同様に行う(19b)
- 2)これは愛の関係です。（父が息子を愛して、 見える（ 20a ）
- 3)それよりも大きなことを見るでしょう。
- 4)父は息子に裁きを任せられた(22):現在の未来的裁き(22,28)(使徒24:25 // 12:2)
- 5)これは父と息子が均等に名誉を受けるようにしたものです。 者は同等であるため、父を敬うユダヤ人は息子も敬うべきです。
- 6)永遠の道、イエス（ 24 ）： これを信じる者は永遠の命を得て、裁きに至らないであろうが、死から命に移ったのです。
- 7)現世的で未来的な永遠の命（ 25-26 ）：「...まもなくこの時」。息子の中に置いた命のためだ。

E. 息子の証拠 (30-47)

1. イエスの裁きの義 (30-32)
2. イエス様の証 (33-40) : イエス様も二世の証人が必要？ 神の証のために洗礼 ヨハネがオーム (ヨハネ1：29 , 33 , 34) ですが、より大きな証拠はイエス様自身の 行動が神を示すために神の証拠があるのです (36-37)。神の直接的な証拠もあります (マタ3)
3. お互いに栄光のために(41-44):神とは無関係の名誉を求める
4. モーセの証拠 (45-47) 律法を伝えたモーセはイエスを訴えずに証言しましたが、ユダヤ人は律法に基づいてイエスを訴えました。

F.議論

と

- 私にとって安息日はどういう意味ですか？
- 私の安息を奪っていくのはどんなものか？
- イエスが提供する安息
人生に疲れた私にとって実際的な慰めになるのか？
- 私は癒しのために祈る根拠をどこに置くか。
- 病気と病気の関係は？
- イエス様の癒しが意味するのは？
- なぜ息子を信じれば救いを得るのですか？

イエスは命の様式(6:1-7:1)

1. 出エジプトの模型を示すイエス様の記事：多くの群衆を餌にする奇跡と水の上を歩く奇跡を通して、イエスは過越祭の意味を完成することを明らかにしています（マタイ14:15; マルコ6:35）

A. 傭兵の奇跡(6:1-15)

1) 出エジプトの記憶を思い浮かべる：新しいモーセを渴望する

a. 「山にオルサ」：モーセのダウタウン山の経験を思い出させる

b. 「ついにユダヤ人の祝日である過越祭に近い」（v.4）：

c. フィリップの見積もりによる非現実的な解決策（200 デナリオン：腕の月の賃金）：テスト

d. アンドレが確保した資源の非現実的な分量：私たちが持っている能力と奇跡のコントラスト（王1：42-44）：エリシャが20個のボリ餅で100人を与えた事件

e. イエスの奇跡：座らせ、祝福、分けなさいくれて、円なしでください。

f. 12バスケット：奇跡の証拠

g. 人々の証拠：世界に来る預言者（申18：15、18）

B.過越祭（無教節）

- 宗教力としての最初 達人の14日、出エジプトを記念する過越祭が始まり、無教節が同時に始まる。イエスは誤った病気です 人を養う 仕事は無教節です に起きたので、ユダヤ人は天の出会いを下したモーセを思い出し、モーセの「その預言者」を考えました。

C.出エジプトとその預言者

- エホバが契約の神となった背景には出エジプトがあった。
- 「私はあなたをエジプトの圧制から救った神です。」：彼らは神の救いを紅 事件を通して経験し、天から供給された出会いを経験した。
- しかし彼らはまた、彼らはキムシを崇拝することによってアダムがエデンで犯した反逆を再現し、不従順と不信の罪を犯しました。
- この出エジプトのモデルはイスラエルの歴史を通して重ねられました。最後はイスラエルと南 ユダが彼らの偶像崇拝によって契約の象徴である神殿を奪われ、約束の地を離れなければならなかったのです。
- （たとえ今彼らの子孫が戻ってイスラエルに住むとしても、神様の新政国家として自主的な国家ではなく、エジプトの圧制の時のように異邦国家の支配を受けているのだ。） 旧約の預言者たちが散らばった民族が故国に戻る出エジプトを夢見たように、今、彼らはイエス様による第二の出エジプトを期待するのだ。

D.王にしよう ハム

- 「無理やり王を作ろうとする行を知って一人で山へ」(v.15)

- 1)ユダヤ人たちはイエスを王とし、政治的な圧制からの自由を切望した。
- 2)ユダヤ人はイエスを王にし、貧困の問題(パンの問題)からの自由を切望した(v.26):餅を食べて配った理由
- 3)しかしイエス様による出エジプトは(人間の堕落による)罪の問題からの自由である。つまり、神様の命、まもなく永遠の命を得るための救いであるのです。(v.27)

- 神の働き：「神の送り主を信じる それが神の働きです」(v.29)。
前での奇跡が内包している意味と同様に、旧時代の救い論を上回る新しい時代の救い論を提示する。初代教会の「信仰の義による救い」は、ヨハネによる福音書でも鮮明に宣言されています。
- ：モーセがくれたマンナの有限性にイエス 自分が餅になることによって提供される永遠の命(命)を対照(v.32-33、35)：まもなく命の餅だから」
(エゴエミ宣言)

E海を渡る

- 1) 水の上を歩く：イエスは創造主の時期に超自然的な力で
自然を治める
- 2) 紅海事件：餅の物語の中に挿入されたイエスの海を渡った記事は出
エジプト時の紅海 事件を連想。過越祭/無教節-餅-紅海-会う
- 3) 「ナニー」(エゴ-エミ) 神性を表します。
- 4) 「恐れる」マウ」神の新現に従う人間の反応。

F.生命の資源が餅なら

1)天会の限界性 (49 , 58) を備えた命を与える天からの餅 (6:27, 32-33, 35, 41, 48, 51, 58)

2) 聖餐の要素：イエスの最後の過越祭の晩餐 (13章) シーンを補完する、すなわちイエスの苦難と十字架 (イエスの体-命の餅、イエスの契約の血- ワインが持ってきた新しい過越祭の救い、新しい出エジプト救いを見せる。

因子の肉だけでなく、因子の血：多くの人のために流れる血 (v. 53-56) 14:24 。 イザ53:10)

G.契約の血

- 1)イスラエルの民と神様が市内 荒野で契約を結ぶ 会衆に振りかけた「契約の血」(出24:8)
- 2)割礼時に流れる血は契約の民のしるし、割礼を通じて世代を経て契約に参加する。
- 3)自分の死で結ばれる鳥 契約(イザ42:5、49:8。レム31:31-34)

ㄥ

H.因子の肉と永遠の命：

1)神様の命に参加することで「命」と同じ意味で使われる。ヨハ3:16 ; 336; 4:14; 5:24; 39; 6:35, 40, 47-48, 53-54)

2) 来世の救いだけでなく、現世の救い体験：実現した終末論
5:24; 6:35-61

I. 因子

- イエスの韌性より神性を内包する名称である
- 「その人の息子」が聞こえなければなりません (3:14 // 8:28)。
- 「その人の息子」が栄光を受ける 時(12:23)
- 「その人の息子」として聞こえたとき、多くの人を自分に導く もの(12:32-34)
- 「その人の息子」(ただ7 : 18、22、27)

議論

奇跡を経験する人々の反応を見て

- 自由主義の社会福音の限界を話しましょう。
- 人類の餅の問題をイエス様はどのように見ますか。
- 私自身は私の人生に包まれた餅の問題をどうやって解決するか。
- ヨハネが提示する永遠の命とは？

と

メシヤ論争（7章-8章）

- ガリラヤから
- ユダヤ人が殺そうとする（第5章安息日の治癒事件：5：21-24）
憎しみの重力：敵が殺人に向かって進む（v19）
- 家族がイエスを世界に表わすことを望む論理：大きな祝日に大きな市内（3-5）：ガナニ婚姻 ごちそうでのマリアのアドバイス（2章）。五千人を養う 後に群衆がイエスを王にしようとする考え（6章）
- しかし、イエスの時についての徹底的な認識（v.6-9 // 2：3）は、救いの道を提示することを可能にしました。

メシヤ論争（7章-8章）

- エルサレムから
- イエスの教えの神の起源(7:14-24)
- イエスの教訓は送られたものです。イエスは神の栄光を表します（ messenger、revealer ）。安息日事件を通して安息日の啓示を照らすイエス（啓示を明らかにする）と安息日の啓示に暗いユダヤ人の対比：啓示者の呼びかけ ユダヤ人の呼びかけ だった：世界の光で呼んだ使命は罪です そのため暗くなったのだ。
- 今、初幕節の啓示を自分を通して明らかにする

幕屋の伝承とイエス

と

A.出エジプトを記念して、幕屋を建てて過ごすことで荒野生活から保護され、供給されたヤウエの行為を記念

B.既婚サムターで水を長くする 取る 神殿の祭壇に水を注ぐ儀式

1)イザヤ12:3を歌う:岩から水が出るようになったことを思い出してください。

2)祝日の終わりすぐに大きな日に：8日目の聖会？

幕屋の伝承とイエス

と

3)メシヤの宣言(v. 37)叫んでカラサデ「...わたしに来て飲みなさい」
(4:14; 6:53-56)

- 私を信じる者は聖書に達しました（エゼ47:1;イザ12:3;ヨブ2）
聖霊が水のように注がれることを教えてください。
- を供給する人（7:37-39：「わたしを信じる者は...
- への期待（シュツ：14：8、16-19）その預言者（申18：15，18）
ダビデの種（サム7：16）。

幕屋の伝承とイエス

C.最後の夜を女性が庭で松明を明らかにする伝承

神が出エジプト当時の火柱、雲の柱にイスラエルを導くことを記念して（民9：15-23）、神殿全体を明らかにして歌って踊ります。

終末に神の啓示（知識）としてシオンだけでなく、全世界を照らす起源：

私は世界の光です（ヨハネ8:12）。

幕屋の伝承とイエス

1) 光は啓示の手段

- 姦淫現場で捕らえられた女性に対するイエスの判決を口実に告訴しようとする書記官とパリサイ人
- a. ヨハネの概念は目で知るのではなく、体験を通じたことだ。神様との関係への連合だ。
- b. 光は聖さの象徴です（使徒9：3; 1：5）
- c. イエス・キリストは救いのための独特なライトである。

幕屋の伝承とイエス

- 2) 世界の光に対するユダヤ人の拒否：ユダヤ人のメシヤ思想（ダビデ王国）に関して不十分な条件（二人の証拠が必要です（神17：6; 19:15）今；サタンの子供//アブラハムの子供（v.35-41）。わいせつな出生(v.41) など。
- 3) パラドックスの啓示：イエス・キリスト 前に言われたが，捕まえた者がいなかったのは，彼の時が至らなかったからである（v.30）。

ら

幕屋の伝承とイエス

- 4) 「私は (「 24 : エゴ...エミ : 私が彼である用法) 受け取るということだ。
- 5) 送られた神の息子 : セム族には送られた者 (ヨハネ8 : 16、18、29) と送られた息子 (ヨハネ3 : 17) が同じです。だから彼の全権大使だ。パウロの「伝播する」ケルソーの意味

幕屋の伝承とイエス

6) 真実はあなたを自由にします//あなたは罪の中で死ぬでしょう。

イエスが伝えてくれた天の真理で、世界の拘束から自由になる。

7) あなたはアブラハムより大きいですか-「アブラハムが出る前に、あります。(Before Abraham was, I am)」: 先にある神を表現するイエスの自己宣言（出3:14）。

- 7:1-8:59では、イエスはミネラルウォーターであり、命の光：イエスは初幕節の完成を語り、また世界の代理人と神の代理人の摩擦を示しています。

世界の光、良い羊飼い (9 : 1-10 : 42)

■ 小径治癒事件：

1. 小径の目を明らかにするメシアの行動に関する預言(イザ42:7; 29:18; 35:5; 62:1,2)とイエスの成就
2. 弟子たちの神学：罪による個人の質名 (詩103 : 3) //罪による人類の連帯的な不幸の運命：小説
3. 神様がなされること(3):暗い世界に光を与えてください(1:5-9):世界の光であるイエス・キリスト(8:12, 9:5):神様の癒しの力、栄光愛が現れ、暗闇に閉じ込められた者は神様の栄光の道具になる
4. 泥と唾液を使用し、シロアムに行って洗う：信頼を助ける：イエス・ヒーリングのいくつかのタイプの一つ

世界の光、良い羊飼い (9 : 1-10 : 42)

- 世界の光 (9枚)
- 経開案事件で人々のイエス様について
- 2つの推測 : 安息日を犯した罪人//小径を癒すことができる神の預言者
- 3つの反応 : a. 拒否 (パリサイ人) ; b. 告白するのを気にしない (小径親) c. 出教を覚悟してイエスをキリストに告白する
- 小経のパラドックス : パリサイ人は、小経治事件がイエスの輝きを示す事件で、旧約聖書のメシヤ預言の成就であることを知っていましたが、その啓示を否定することによって小径になりました (39-41; 6章; 42:7-19; 62:1) 。
- 小経の信仰告白の発展 : 啓示の進展 : 預言者 (17) -神から来た者 (33) -キリスト (38) -崇拜

世界の光、良い羊飼ひ（9：1-10：42）

- イエスを告白する者は社会的な不利益を覚悟しなければなりません。イエスを否定する者から憎みを受ける場合があるからです。そのため、大多数の人々は露出を消す。しかし、イエスを告白する者を訪ねて、慰めと啓示する（35）
- パリサイ人はユダヤ社会の指導者でした。しかし彼らは小径として小径を導く者たちだった。光がないということは、危険、恐怖、不安定、混沌を意味し、彼らのイエスに対する敵の殺害はこの暗さによるものです。
- イエスの輝きはすぐに裁きです（39）

-
- イエスは^こ良い羊飼いです
- 旧約聖書-神の民は神の羊の群れで表現されています（詩23：1、80：2、レム31：9）
- コミュニティリーダー：王、預言者、祭司、
- 良い羊飼いとわたしの羊飼：羊飼が良い羊飼いの例：モーセ、ダビデのように神の民を支配する善良な羊飼います、偽りの羊飼、邪悪な羊飼いの指導者たちもいました。（ゲル34章）
- 9章小径が目覚める事件を通して、パリサイ人と10章のイエス様を対照する。
- エゼキエル第34章：ユダヤ民の捕虜と散乱の運命の中でも、彼らにダビデのような良い羊飼いを与えてくださると約束されました（ゲル34、37、ミ5：3、詩78：71-72）。
- イエスはまさにその良い羊飼いです（14）。
- 良い羊飼いは羊を命を捨て、最後まで守ります（15）。

良い羊飼ひ（10枚）

と

- イエスは正の門です。
- ドアとは：境界が囲まれた指定空間への進入のためのもの。羊飼ひはその門に入ることができます。量が入ることができる。盗賊はドアを通過できません。神の国に入ることを連想させる絵言語である。
- 入る：はい）異邦の充実した数が神の国に入るまでイスラエルが悪くなっています（ローマ11:25）。
- イエスが羊の門なので、彼を通して天国に入る救いを得る。

良い羊飼ひ（10枚）

- イエスの化法
- わかりにくい（20、24）：聞いている人が聞くようにするためです。彼が行った奇跡によってイエスが神を明らかにしたにもかかわらず（小経癒し：イザ29章）、信じないのは彼らの心霊が悪いからです（イザ6章）。
- イエスが行なった奇跡が神から来たことであることを知る必要があります。しかし、彼らはイエスの群れではありません（26）。
- 羊飼ひの声を聞くと、羊の扉に入り、永遠の命を得る。
- 分離現象：福音を聞いてイエスの弟子になれば、すでに永遠の命を得て（光）拒絶すると、すでに裁きを受けたのです（暗さ）（予定論的な救い）。
- 息子と父親の一つである（30、31-39）啓示者と啓示の対象が同じでなければ啓示が起こります。イエス様が神様でなければ神様を明らかにすることができます。
- 人々の敵意と肉体（31）

イエスは復活であり、命（11章）

と

- イエスのネザロを生かし、大祭司のイエスを殺す陰謀
- 1.ネジロの病気と死
- A.姉妹が病気をイエスに告げる：人々がイエスが愛する人 わかった(3,3 6)
- B.死のためのものではなく、神の栄光を示すためのもの：啓示者として、神がイエスの死を認めるか復活させ、栄光を受けて神が栄光を受けることを明らかにする視聴覚資料。
- C.イエスの遅滞:でもニュースが届いた時はすでにネジロが死(1+2+1=4)
- 「神の時間」の中で働いてください。イエスが死んで商売を過ごしたバーになって生き残った

ㄥ イエスは復活であり、命（11章）

- D.しかし、覚えておくために行った：「ユダヤに戻って行こう」
- 危険の場所、死の場所しかし時がまだ低く（9：まだ死の時間ではないので安全）：羊のために自分の命を与える良い羊飼いの姿
- E.覚醒に加ノラ：弟子たちの誤解とイエス様の教え-眠りは表現を死に変える（現在の私たちの死の経験を見落とさない）-彼の教えは弟子たちの信仰のために信仰によって超越的に神様を知る命に生まれる）

イエスは復活であり、命（11章）

- 2.イエスは復活であり、命とされておられる（11:17□27）
- A.マルダの論理：主がここにおられたなら、私のオラビは死ななかったでしょうか（21）：恨み？悲しみ？）：不幸は彼の不在または非存在を意味しますか？遅れが永久に取り消されたわけではありません。
- B.マルダの信仰：イエスを神が聞く（22）
- C.マルダ信仰の限界：最後の日の復活を信じていますが、今日私の弟の復活は考えていません（24）：現在の永遠の命に対する信仰（「すでに...まだ」の現存する未来）
- D.マルダの信仰告白：主はキリストの世界に来られた神の息子の神 信じる（27）
- E.マルダの現実感に支配された信仰：信仰に比べて遅すぎる、過度の現実：現在不可抗的な死の現実感、しかしイエスは誰ですか？
- しかしイエスは復活で命

イエスは復活であり、命（11章）

- 3.神の愛する者に対する悲しみと罪に対する怒り(11:28-44)
- A.イエスの寛大さとイエスの民望：イシンの無情な神が人生と 通りに自分を置くのとは対照的に、神であるイエスは人間の世界に来ただけでなく、人間に来て人間の悲しみに参加し、人間の痛みを怒らせた。そして救われた。
- イエスは神の涙を明らかにしています：イエスは涙を流しました。彼は最後の栄光を知る方だが、私たちの悲しみも知っている。
- B.栄光が現れるまで（40、4）人間と父と同行するイエス（石を運び、祈り、呼びかけ、解放してください）：神が私を送られたことを信じさせます

イエスは復活であり、命（11章）

と

- *ナザロを復活事件は、イエスが神様の子として命を与える権威を委任されたことを証明し、終末に聖徒たちに起こる復活に対する批判を与える。
- *休憩の時、聖徒たちに（サル4:16）、彼の再臨の時、旧約聖書の聖徒たちに（ただ12:2）、喧嘩の中で聖徒たちに（20:4、6）、この瞬間にも（エペソ2:1-10）このようなことが起こります。
- 4.サンヘドリンがイエスを殺すことに決めました（11:45-54）
- イエスの生き方とは対照的なユダヤ人の殺害の模範
- 一人が民のために（贖い）死んで 全民族が滅びないように（3:16）：政治的な計算が宗教に關与することが多い。しかし、それは大祭司の宗教的な責任でした。

共生愛の働きの結論（12章）

1. 油注ぎ(12:1-8)

A. 時刻表：*過越祭のめちやくちゃ

B. 場所：ベダニ

C. 純粋なナード - マリアの視点：ネジでサリシムに感謝

ガロットユダの視点無駄

イエス様の視点：ひいきにされた予言

香油の香りが全家に広がるように、イエスの福音が全世界に広がるはず

ㄥ

エルサレム入城 (12 : 9-19)

- A. ねじで復活事件で多くの人がイエスとねじを探す
- B. 歓声、ホサンナ
- C. お尻に乗って入城 (シュト9 : 9) : 平和の王
- D. 崇拝に来たヘライン : 死の時間帯
 - 「因子が栄光を得る時が来たのです」 (23)
 - 一粒の小麦が死んで多くの実を結ぶ。
 - 「私が聞くと、誰もが私に 導くよ」

信じないユダヤ人 (12:37-50)

- 1) 多くの標的 (セメイア) にもかかわらず、ユダヤ人は信じていません。
- 2) 「わたしたちに聞くことを誰が信じたのでしょうか。主の腕が明るく現れたのでしょうか。」
- 3) 信じられない理由は：神が信じていない彼らの目は遠くに心はより頑固になった。
- 4) イザヤが目にした神の栄光 (イザ6:3) はイエスの栄光です (ヨハネ1:19、10:30; 20:28; コリ2:9)。
- 5) イザヤのメシアの預言はイエスを指しています (イザ4:2; 7:14; 9:6-7; 11:1-5, 10; 32:1; 42:1-4; 49:1-7; 52:1-53:12; 61:1-3)
- 6) しかし、神が残した少数の人が信じ、また信じたが、人を恐れて信仰を表現しない人もいます。

イエスの教訓

(叫びカラサデ (ヘル・エクラクセン、重大性 : 1:15; 7:28; 37)

- 1) イエスを見た人は、その父親を見ているのです (ヨハネ 12 : 41; 14 : 9)。
- 2) 暗闇に住まないようにする。
- 3) 世界を救いに来た
- 4) 最後の日の裁きは、父が送られた者を拒否したことです (申 18 : 18-19; ヨハ 3 : 18、36、36; 5 : 24)。

パート2：栄光の本

- イエスは父に戻る
- ヨハネによる福音の二つの方向性：coming and going：
- イエスは世界に来る（2：1-12：50）
- イエスは世界を去りました（13-20章）

I. イエスが弟子たちを準備する (13-17章)

ら

- A.最後の晩餐 (13 : 1-30)
- B.出発が差し迫った (13:31-38)
- C.父への唯一の道 (14 : 1-14)
- D.保恵士聖霊を約束する(14:15-31)
- E.ブドウと枝 (15 : 1-10
- F.イエスの友達 (15 : 11-17)
- G.世界が憎む(15:18-16:4)
- H.聖霊の働き (16 : 5-15)
- I.変化の予言 (16 : 16-33)
- J.イエス様の祭司長的祈り (17章)

Ⅲ。イエスの受難と復活：父に帰る（18-20）

ㇿ

- イエス様が逮捕されました
- 尋問とペテロの妻(18:12-27)
- 群衆の質問(18:28-19:16)
- 十字架に走る(19:17-30)
- 商売（19:31-42）
- 空の墓（20：1-9）
- マリアに自分自身を示す（20：10-18）
- 弟子たちに自分を表わす（20：19-23）
- まな板に自分自身を示す（20：24-29）
- 本の目的(20:30-31)

ㄥ

レビュー (21枚)

- イエスは浜に現れました (21 : 1-14)
- イエスはペテロに誓った (21:15-23)
- 要約 (21:24-25)

Ⅰ. イエスが弟子たちを準備する（13-17章）

- A. 弟子たちの足を洗う（13：1□11）イエスの標識的行為
 - 1）救い主義的な意味：今後のイエスの死 人間の罪を洗う
 - 贖いの祭司（イザ53:10）。最後の晚餐の時に宣言された新しい契約の血
 - 2）倫理的模範：近所の愛、

I. イエスが弟子たちを準備する (13-17章)

- B.裏切られることを予告する (13:18-30)
- 1) 霊に民望して (13:21; 11:33; 12:27)
- 2) 弟子たち、ペテロ、ユダの反応
- 3) 夜です。(30): ユダは光を出て (8:12; 12:35、46) 罪の暗闇に行きました (3:19)
- 4) 新しい戒め: お互いを愛せよ: 弟子の証
- 5) 「因子」が栄光を得て、神も栄光を得ました.: 因子-その人の息子
- その後、私の行くところに来ることができます (36): イエスの死を通じた贖いによって神の民が創造されました。教会コミュニティ
- ペテロの三度の否認を予告 (38)

I. イエスが弟子たちを準備する (13-17章)

- C. 父への道 (14 : 1-14)
 - 1) 心配しないでください(1:心を守らなければなりません。 睡眠3:1、3、5; 4:23; 20:9)
 - 2) 処所を予備に行く (2-4): わたしが行く途中であなたたちも知らせる(4)
 - 民と住む処所を設けに行く。(弟子たちは理解していません)
 - ギリシャ的な世界: 下の世界で救いを得れば、上の世界に行く。イエス様は神様の体であり、天に属する方ですが、自分を下げて地に来られました。十字架の死で再び天の父に向かう(ビル2 : 6-11)
 - 3) 「わたしはまもなく道であり、真実であり、命であるから、わたしに言わずには父に来る者はいない」(14:6)。
 - 父を息子が啓示-弟子たちがイエスを啓示: 「私のすることを私もするでしょう。」

Ⅰ. イエスが弟子たちを準備する (13-17章)

- D. 保恵士聖霊を送る(16, 26):
 - 1) ヘル、パラクレイトスとは「隣にと呼ばれる者」「弁護士」「助けるように不利になった」聖霊はイエスが去った後に残された民を助ける。
 - 2) 永遠に一緒にする
 - 3) あなたと一緒に
 - あなたの中にいます。
 - 教えて、思い出させる。

I.イエスが弟子たちを準備する（13-17章）

- E.平安をジュノーラ：
- 1)捨ててはいけない、再び来る:(1)復活または(2)ペンテコステ聖霊降臨
- 2)私が住んで生きて、あなたたちも生きる（復活）
- 3)わたしが父の中に、あなたがたがわたしの中に、わたしがあなたがたの中にいることを知らせる(20)(聖霊)
- 戒めを守る（新しい契約の内面化された戒め）
- 4)イエスはいくら 後死んで復活した 後聖霊を注ぐ 弟子たちとしてイエスが神の働きをしたように、イエスを明らかにしてください。 イエス様の働きをするように言われました（ルカによる福音と使徒行伝）

I. イエスが弟子たちを準備する (13-17章)

- F. ブドウのたとえ話 (15枚)
- 1) 旧約聖書の中で神の民を象徴しているブドウ (詩80 : 7; イザ5 : 1-7; レム2 : 2; 6 : 9; ゲル15 : 17 : 5-10; 19 : 10-14; 10 : 1; 14 : 8) コミュニティに適用する。
- 2) つると枝の有機的な関連性を理解することによって、1) 弟子とイエスの関係 (11-17)、2) お互いの関係 (11-17)、3) 世界との関係 (18-16 : 4) を照らします。
- 3) 神の父はぶどうの木を耕す農夫である時期に果実を期待する (2、4、5、8、16) 神はイスラエルへそれから果実を期待し、果実は愛の従順と正義と公平でした (イザ5 : 1-7)

I. イエスが弟子たちを準備する (13-17章)

と

- 互いの関係 (11-17) と3) 世界との関係 (18-16:4) を照らす。
- 3) 神の父はブドウを耕す農夫である時期に果実を期待する (2,4,5,8,16)
- 4) 弟子たちの3つの義務: 居住し (4)、愛し、証拠すること。
- 「住む」-a) イエスを救い主として受け入れる (6:54, 56)。 b) 信仰を守り続けるもの (8:3; 2:19,24); c) 信仰と愛の従順 (15:9-10)
- 剪定-実を結ぶことができない生命力のない枝は切られて燃やされる。弟子の中でユダのようにコミュニティに参加していますが、イエスと断絶され、霊的に死んでいる人たちの運命を示しています (マタイ 25:46)。

I. イエスが弟子たちを準備する (13-17章)

- G. イエスの友達 (15:11-17)
- 1) 弟子たちはイエスの友人です。
- 2) わたしがあなたがたを愛したように、あなたたちもお互いを愛しなさい
- 3) 友人のために命を捨てるほど (大使20:7; イザ41:8)
- 4) 友達のために父に聞いたことをすべて知らせる
- 5) 神様が選ばれた
- 6) いつも実を結ばせる
- 7) 世界が世界に属していないイエスを憎むように友達を憎む (15:18-16:4)
- 8) 憎む世界に残される友人たちに報恵師聖霊を送り、彼がイエスを証しします。
- (使徒行伝と教会史を通じてクリスチャンが世界で迫害を受ける理由だ)

5

I. イエスが弟子たちを準備する (13-17章)

- 16章

- 1) 気にしないでください-残された弟子たちに有益です-行かなければならない (go)
- 2) 聖霊の働き：「罪について (信じる) いない)、義に対して (復活として証明された義)、裁きについて (イエスの死と3)、復活で世界の賃金が審判される：ゴール2：15) 世界を責めなさい」(16：8)

- 真理の中に導く

- イエスのことを知らせる もの

-

I. イエスが弟子たちを準備する (13-17章)

- 4) 変化の予言(16:16-23)

- a. 少しあれば見て

- また少しあれば見てください。
- 私は父に行く-十字架の死と復活

- b. 痛いだろうけど嬉しいよ

- 子供を解散する痛みの後に喜ぶように
- 実際、イエス様の十字架-復活-聖霊事件で教会が誕生(使徒2章)

- c. イエスは父に出て、世に来て(come)、再び世を去り、父にガノラ(go)

- d. 弟子たちが平安できる根拠は「...世の中では君たちが患難に遭うが、大胆にしないで。わたしが世に勝った」。 (33)

I. イエスが弟子たちを準備する (13-17章)

- 大祭司の祈り (17章)
- 自分のための願い (17:1-5)
- 1)父と息子の関係性の中でお祈りする(1):息子で映画に-父を映画に
- 2)万民を治める権威-すべて 彼らに永遠の命を与えよう (2)
- 3)永遠の命とは-まもなく唯一の真の神様と彼の送られた者イエス・キリストを知ること (ギノスコシン) (3)。
- 世界でやるようになったことをして父親を映画化させた。私の創世記の父と一緒に映画に戻る祈り (ビル2:8)

ㄥ

I. イエスが弟子たちを準備する (13-17章)

- 使徒たちのための中報 (17:6-19)
- 1) 父によって選ばれ、イエスに与えられた(7)。
- 2) 父の名で私たちを保全してください。
- 3) 父が私を世界に送った 私のように私たちを世界に送りました (18)

I. イエスが弟子たちを準備する（13-17章）

- 未来の信者のためのイエスの仲間（17：20-26）
- 1) また、私たちの言葉によって私を信じる人もいます。
- 2) 父は私 私が私の父の中にいるように
- 3) 私たちもすべて一つになって私たち 中にいる
- 4) 世界に父が私を送ったことを信じさせてください。
- （21：コイノニア、三位一体のコイノニアの中に教会が入るようになること）

ㇿ

III。イエスの受難と復活（18章-20章）

- 逮捕
 - 1) 東ギドオン市内向かい（ワディ エンナール）：東山は弟子たちが一緒に過ごした場所で、ユダも場所を知った（2）
 - 2) 誰を探るか-ナザレのイエス・キリスト-ナロラ(エゴ...エミ)
 - 3) 弟子たちを保護する（9）。大祭司の種のベーンの耳を修正
 - 4) 父がくれたグラスを飲まないのか(11)

ㄥ

III。イエスの受難と復活（18章-20章）

- 大祭司の尋問（18：12-27）
- カヤバ-イエスの猛烈な死を宣言：「一人が民のために死ぬのは有益です」
- 過越祭 贖罪
- 罪：神の冒険（レビ24:16）
- ペテロの妻（17、25、27）

Ⅲ。イエスの受難と復活（18章-20章）

- ヴィラ島の質問（33-38）—「ユダヤ人の王なのか」「真実は何なのか」
- 私の国は世界に属していません。
- ヴィラドの無罪宣言(18:38; 19:4) -イエスは無限の贖罪のイエス
- 過越祭の前例：群衆の選択（40）：イエスの代わりに強盗バラバ

5

III。イエスの受難と復活（18章-20章）

- 鞭、モック、十字架、ファック：ユダヤ人の王（3つの言語：ヘブライ語、ギリシャ語、ローママル）、下着、母親の扶養をその弟子に頼む。喉の渇き、死、
- 4言った、わたしの神、どうして私を捨てたのでしょうか（マタイ27:46。ヨハネの福音にはありません。5言葉が喉の渇き(詩69:21) 6言“すべて成し遂げた:テテレスタイ:拘束の働きが完成することを意味します。
- 「すべて成し遂げた」（30）：詩篇

5

Ⅲ。イエスの受難と復活（18章-20章）

- 十字架の標的
- 骨を壊さなかった：過越祭の子羊の骨を折ってはいけないという命令が出ます。「その家の外に置かないで、その骨を折らないでください。」「彼のすべての骨を守り、そのうちの1つも折れないでください。」（詩34:20）
- 窓に刺された脇の下で爆発 出てきた水と血

Ⅲ。イエスの受難と復活（18章-20章）

- 東山墓
- アリマデヨセフの店、ニゴデモ 葬儀の香りと一緒に訪問
- 復活：安息の後の初日-日曜日の起源？
- 過越祭の昼間 安息の後の初日は超失礼（過越祭の計算法が公館福音と異なる）
- 復活の証拠、空の墓を目撃
- ます。女性に最初に現れた。
- 弟子たちに現れます（19-20）。まな板に現れる
- 聖霊 主審（22）;罪惡

Ⅲ。イエスの受難と復活（18章-20章）

- ヨハネによる福音書の記録の目的：「ただこれを記録することは、あなたがたはイエスが神の子キリストであることを信じさせようとすることです。」

5

レビュー：チベリヤビーチの食事と ペテロに向かう愛の命令

- イエスは浜に現れました (21:1-14)
- イエスはペテロに誓った(21:15-23)
- 要約(21:24-25)